

# 看護学生の初年次教育におけるリーディング指導の効果

柄澤 清美<sup>1)</sup>・中村 恵子<sup>1)</sup>・中村 圭子<sup>1)</sup>

1) 新潟青陵大学看護福祉心理学部看護学科

## Effects of Reading Guidance in the First-Year Training for Nursing

Kiyomi Karasawa,<sup>1)</sup> Keiko Nakamura,<sup>1)</sup> Keiko Nakamura<sup>1)</sup>

1) NIIGATA SEIRYO UNIVERSITY DEPARTMENT OF NURSING

### 要旨

本論文の目的は、看護学生対象の初年次教育として組織的な取り組みで実施した「リーディング指導」の効果を明らかにすることである。

指導前の「文章の読み方チェックシート」の28項目を因子分析した結果、「深く読む」「大局に立って読む」「構造を意識して読む」「手順を踏んで読む」「創造的に読む」の5因子が抽出され、指導後すべての因子の下位尺度得点が有意に向上した。また、学生の「ためになったこと」の記述から14のカテゴリーが抽出され、それらは5因子に対応した。さらに、学生の「役立ったこと」を分析した結果、8サブカテゴリーが導かれ、「スキルアップ」「読むことの認識の変化」「実践・活用」「楽しさ」のカテゴリーにまとめられた。学生は、読解を深くするための発問や、同一テーマで視点の相違を比較できる教材によって、読むことの奥深さを意識でき、読み方を自己評価する経験によって、正確に読解できているかメタ認知するようになった。

### キーワード

初年次教育 看護学生 リーディング指導

### Abstract

The purpose of this paper is to clarify the effects of reading guidance that was undertaken as an organizational initiative in the first-year training to nursing students.

Based on pre-guidance factor analysis on 28 items listed in a reading method check sheet, five key factors were selected: detailed comprehension, overall comprehension, recognition of structure of content, comprehension through stages, and comprehension using imagination. Following guidance, scores in lower parameters improved significantly for all factors. Fourteen categories were identified from descriptions by students on inspiring aspects, and these categories corresponded to the five factors above. Descriptions by students on useful aspects were also analyzed, and eight sub-categories were identified, which were grouped into four categories: skill enhancement, changes in the recognition of reading, practice and utilization, and delight. Students were able to recognize the resonance of reading through questions for deeper comprehension, and through materials that enabled comparison between different perspectives under the same theme. They could also achieve meta-recognition on correct reading through the experience of self-evaluating the reading method.

### Key words

First-year training, nursing students, reading guidance

## I はじめに

2008年の「学士課程教育の構築に向けて」(答申)<sup>1)</sup>において、入学者選抜を巡る環境変化、高等学校での履修状況や入試方法の多様化等を背景に、入学者の在り方も変容しており、総じて、学習意欲の低下や目的意識の希薄化などが顕著となっていることが示されている。初年次教育は、「高等学校や他大学からの円滑な移行を図り、学習及び人格的な成長に向け、大学での学問的・社会的な諸経験を成功させるべく、主に新入生を対象に総合的につくられた教育プログラム」あるいは「初年次学生が大学生になることを支援するプログラム」として説明される。我が国の大学においては、初年次教育として、「レポート・論文などの文章技法」、「コンピュータを用いた情報処理や通信の基礎技術」、「プレゼンテーションやディスカッションなどの口頭発表の技法」、「学問や大学教育全般に対する動機付け」、「論理的思考や問題発見・解決能力の向上」、「図書館の利用・文献検索の方法」などが重視されている。答申では、大学は、学習の動機付けや習慣形成に向けて、初年次教育の導入・充実を図り、学士課程全体の中で適切に位置付けることを提言している。

初年次教育の内容は、それぞれの大学や新入生の状況、教育方針や教育目的に基づいて、それぞれの大学もしくは学部・学科において、カスタマイズしていく必要がある。組織的な目標の共有、内容・方法の選択とカスタマイズに際し、担当する教職員にそれらが共有されているかが重要である。組織的に教材を供給し、方法論を教える仕組みが必要になる<sup>2)</sup>。本看護学科においても、看護学生を取り巻く状況を踏まえて、組織的、計画的に初年次教育に取り組んでいくことが求められている。

現代の看護学生の特徴として、(1)物事を自

分で判断できない、(2)主体的な行動が出来ない、(3)対人関係が苦手なチームで行動することが出来ない、(4)患者の安全性を保つ実践技術が未熟であるという点が挙げられる<sup>3)</sup>。厚生労働省の「看護教育の内容と方法に関する検討会報告書」<sup>4)</sup>では、保健医療福祉の変化や国民の期待に応えることのできる看護専門職としての基礎的能力を有する看護職員を育成することが看護教育の喫緊の課題であると指摘している。看護教育の初期に基礎的な学力を高め、看護教育の内容を十分に理解できるようにすることが必要である。報告書では、教育内容の充実のための1つとして、初年次教育としての読解能力や数的処理能力、論理的能力をより高めるための教育内容や、人間のとらえ方やものの見方を涵養するための教養教育の充実を挙げている。

看護学科の初年次・二年次教育における学習スキル獲得に関する先行研究によれば、学生の自己評価(4段階評定)の平均において、「パソコンでの資料作成」3.26、「図書館利用法・文献検索」3.24、「インターネット情報収集力」3.23といった技術系項目の自己評価は比較的高い。それに対して、論理的技能項目は自己評価が低く、「論理的構成力」2.68、「意見と事実を分けて書く力」2.69、「批判的思考力」2.72、「形式的レポート作成」2.75、「重要ポイントをまとめる力」2.75となっている。「文献・資料の読解力」も2.78と低い自己評価となっている<sup>5)</sup>。本看護学科においても、看護教育の内容を十分に理解できるための読解力や論理的能力などの育成が課題となっており、初年次教育の一環として、入門ゼミナールI(必修)の科目を設け、その中でリーディング指導を行っている。

「文章を読む」とは、「文字を見ることを通して情報が頭の中に流れ込み、一方的に入ってくること」ではない。入ってくる情報について自分が既に持っている知識を使いながら、重要な情報とそうでない情報を取捨選

扱し、情報と持っている知識を関連させて文章を理解することである。また、文章を読んでいる時は自己チェック機能が働く（モニタリング）。さらに、腑に落ちるところまで理解するには、批判的に読むことが必要である。<sup>6)</sup>重要な情報の読み取りや知識の関連付け、モニタリング、批判的読みといった読解力を高めるには、教育内容や方法を開発していく必要がある。

初年次教育の効果はどの程度のものかについての実証研究は、まだ我が国での蓄積は少ない。<sup>2)</sup>本研究では、看護学生を対象に企画した初年次教育「入門ゼミナールⅠ」のうち、リーディング指導（3コマ）の効果を明らかにすることを目的とする。

## Ⅱ 研究方法

### 1. 研究デザイン

授業はいくつもの条件が関係しあっているため、1つの条件以外を一定にしておくことが困難であり、対照群を設定した場合、対照群の学生が不利な状態に置かれたまになることから、本研究では対照群法ではなく、量的分析及び質的分析によって授業前後を比較する研究デザインとした。

### 2. 対象

平成25年度前期に入門ゼミナールⅠを履修した看護学科1年生90人の「文章の読み方チェックシート」と授業後の感想を対象とした。

### 3. データの収集と分析

リーディング指導の前後に、文献<sup>6)</sup>を基に作成した「文章の読み方チェックシート」（28項目4件法 4：よくやる、3：ときどきやる、2：あまりやらない、1：やらない）を用い、その時点で自分がどのように読んでいるかの自己評価についてデータを得た。指導前の結果について探索的因子分析により因子を抽出し、各因子に高い負荷量を示した項目の平均値を計算して下位尺度得点を算出し

た。指導前と指導後の平均値の差について、対応のあるt検定を行った。分析は、統計ソフト「SPSS Statics 21.0」を用いた。

授業後の感想は、リーディング指導直後に「リーディングを学んでためになったこと」の記述を得た。また、入門ゼミナールⅠ終了時に役に立ったテーマとして「リーディング」を選んだ学生より「その理由」の記述を得た。それら記述の類似内容をカテゴリー化した。

### 4. 倫理的配慮

学生に対して、回答の自由と個人が特定されないよう分析することを書面で説明し、提出をもって承諾を得たとみなした。チェックシートおよび授業後の感想は、研究終了後に破棄した。

### 5. 本看護学科における入門ゼミナールⅠの授業デザイン

看護学を学ぶ学生の導入教育であることを意識し、前年度まで第一目的としてきた「学習スキルを学ぶ」に「他者と関わる力・話し合う力を養う」を加え、さらに、専門職業人として学び続ける導入であることから「自分の学び方や学んでいることを自己評価する力を養う」という目的も追加する。

また、指導は入学から3年間の学生支援を行うアドバイザー教員が担当し、①学習スキルを教え込むのではなく共に学べるように導く、②話し合いをサポートしながら体験的に「話し合いのルール」をわからせる関わりをするという2点について指導方針を共有し、話し合いのルールを共通認識する。

初年次教育企画担当者3名を決定し、ゼミナールの教案作成から評価まで組織的に企画運営する。授業は、11～12人からなるグループに対して1教員が担当し、90分授業を8回行う。内容は「オリエンテーション」「ノート・テイキング」「リーディング（3回）」「ヒアリング」「レポートの書き方（2回）」が含まれる（表1参照）。

表1 入門ゼミナールⅠの概要

進行	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の目標・内容の理解
2	ノート・テイキング	授業形態にあわせたノートの取り方の工夫
3	リーディング(1)	テキストの読解
4	リーディング(2)	文章の要約
5	リーディング(3)	批判的に読むこと
6	ヒアリング	物語の登場人物の心情を察して話を聴くロールプレイ
7	レポートの書き方(1)	レポート作成のための情報収集
8	レポートの書き方(2)	レポートと作文の違い・作成の段取り

表2 リーディング指導

進行	テーマ	教材	授業概要
リーディング (1)	テキストの読解	看護生理学 「血圧」「体温」	事前課題として教材の文章の読み取りを課す。授業では①文中の「語句」について説明を求める、②内容が読み取れていれば答えられる質問を提示し説明を求める。これらを通して正確に読み取り理解するための読み方について話し合う。
リーディング (2)	文章の要約	小論文2題 (1500字程度)	1題目の要約を各自発表後、大意と要旨の違いや要約のポイントについて学びあい、それを踏まえて2題目の要約を行う。
リーディング (3)	批判的に読む	老いに対する異なるスタンスの文章3題	最初に「老いを克服しようとすることを推奨する文章」、次に「老いを受容することを推奨する文章」、最後に「老いの個別性とどう向き合うのがよいかの考え方についての示唆が語られた文章」を読みながら、その都度「何が書かれていたか」「それについてどんな意見・感想を持ったか」について話し合う。

## 6. リーディング指導の内容・方法

リーディング指導は「テキストの読解」「要約」「批判的に読む」で構成する(表2参照)。

「テキストの読解」は専門用語を正しく理解して使うことや、既習の知識を活用して理解することを体験できるように看護生理学の「血圧」と「体温」に関する説明文を教材とする。担当教員が取り組みやすいどちらかの教材を選択することにし、読解を深める発問は企画担当者が提示する。例えば、「血圧」の場合なら「心室」「末梢血管抵抗」「動脈硬化」などの語句を正しく説明できるか確認したうえで、循環器の働きと関連付けて理解できているかを確かめるために「収縮期血圧・拡張期血圧とは、どこが収縮・拡張したときの血圧か」と発問する。

「要約」は1500字程度の小論文2題用意し100字程度に要約する。1題目の要約を各自発表後、誰のものが要約としてより説得力があるか、それはどうしてかを話し合う。その後、教員の指導を入れながら大意と要旨の違

いや要約のポイントについて学び合い、それを踏まえて2題目の要約を行うことで学びを活用することを体験できるようにする。

「批判的に読む」では、「老い」をテーマに異なる考え方が述べられている3題のエッセイを教材とし、最初に「老いを克服しようとすることを推奨する文」、次に「老いを受容することを推奨する文」、最後に「様々な老い方が存在し得ると述べる文」を読む。1つの文章の読後ごとに「何が書かれていたか」「それについてどんな意見・感想を持ったか」について話し合う。3つの文章を読み終わった後で、最初の文章だけを読んだ時の自分の意見・感想とどのような変化があったかについて話し合いを持つ。

## III 結果

指導前の「文章の読み方チェックシート」は79名、指導後の「文章の読み方チェックシート」と感想は90名から回収した。有効回答率は87.8%であった。

1. 「文章の読み方チェックシート」の分析  
 指導前のデータの欠損値を除き、76のデータで28項目の平均値、標準偏差を算出した。5項目に天井効果が見られたが、4に近い値だったため、これらの項目も含めて因子分析

(最尤法・プロマックス回転)を行い、5因子が抽出された。その後、削除された場合に $\alpha$ 係数が0.1以上上昇する1項目を除外し、再度5因子で因子分析を行った。

第1因子 ( $\alpha = .77$ ) は、〈理解度を確認し

表3 「文章の読み方」チェックシートの因子分析

	項目内容	I	II	III	IV	V
深く読む	内容が理解できているかを確認しながら読む	.67	.36	.30	.18	-.07
	読んでいるときに、それまで読んだ内容を憶えているかを確認する	.65	.19	.03	.10	.11
	読んでいるときに、わからないところはどこか気を付けながら読む	.63	.28	.19	.47	-.15
	意見なのか事実なのかを区別して読む	.54	.44	.39	.27	.05
	読んだ内容の中で疑問に思ったことについて考える	.50	.50	.28	.28	.09
	読んでいるときに内容に関係することをできるだけ多く思い出す	.49	.22	.22	.13	.11
	書かれている内容について具体的な例を考える	.48	.30	.13	.09	.32
	読んでいることと、自分が既に知っていることを関係付ける	.44	.40	.43	.00	.17
難しいところは繰り返し読む	.31	-.08	.16	.23	-.02	
大局に立って読む	目的に合った読み方ができているかを確認する	.21	.82	.28	.14	.34
	どういう読み方をすればよくわかるかを考える	.30	.62	.30	.17	.05
	読んだ後に頭の中で要点をまとめる	.49	.60	.11	.36	.17
	文章をいくつかの部分に分けて、それぞれに小見出しを付ける	.16	.51	.22	.17	.51
	読んだ内容について自分なりの理解をしようとする	.50	.51	.27	.37	-.04
	読むときにこれから何について読もうとしているかを考える	.33	.49	.24	.26	-.05
	新しい内容について読んだとき、それがどこで使えるかを考える	.03	.48	.35	-.19	.33
難しい言葉を自分の言葉に置き換える	.27	.32	.30	.08	.26	
構造を意識して読む	文章の章や節の区切りに気を付けて読む	.15	.29	.65	.27	.39
	段落ごとの意味のまとまりに注意して読む	.31	.30	.63	.27	.30
	話題のつながり方(逆接・並列など)に気を付ける	.38	.20	.61	.32	.05
	今読んでいるところ、全体との関係を考えながら読む	.47	.26	.59	.09	-.06
	読む前に目次をよく見る	-.07	.18	.55	-.12	-.02
	わかりにくい文は、主語や述語など要素に分解する	.30	.41	.54	.09	.09
手順を踏んで読もうとする	わからなかったところに印を付ける	.30	.23	.02	.80	.19
	新しい言葉や知らない言葉が出てきたら印をつける	.41	.42	.21	.74	.09
	大事だと思った所は文章に線を引く	-.01	.06	.20	.60	.09
創造的に読む	読んでいるときに気付いたことをテキストに書き込む	.15	.14	.16	.20	.69

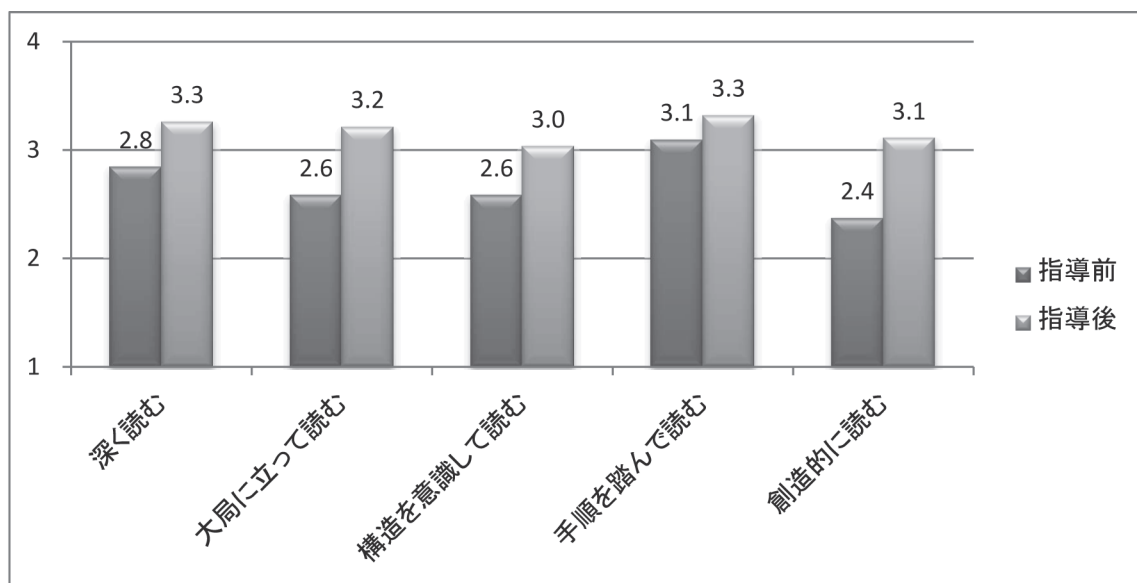


図1 リーディングの指導前と指導後の下位尺度得点

ながら読む)、〈意見と事実を区別しながら読む〉などの9項目で構成され、【深く読む】と命名した。第2因子( $a = .76$ )は、〈目的に合った読み方をしているかチェックする〉、〈頭の中で要点をまとめる〉などの8項目で構成され、【大局に立って読む】と命名した。第3因子( $a = .75$ )は、〈章・節の区切りに気を付ける〉、〈段落ごとの意味のまとまりに注意する〉などの6項目からなり、【構造を意識して読む】と命名した。第4因子( $a = .75$ )は、〈分からないところに印を付ける〉、〈大事な文章に線を引く〉などの3項目で構成され、【手順を踏んで読む】と命名した。第5因子は〈気付いたことをテキストに書き込む〉であり、【創造的に読む】と命名した(表3参照)。

下位尺度得点は、全ての因子で指導前より指導後が高くなっており、全ての平均値に有意な差が見られた。【創造的に読む】( $t(75) = 6.04, p < .001$ )、【大局に立って読む】( $t(75) = 9.45, p < .001$ )、【深く読む】( $t(75) = 7.76, p < .001$ )、【構造を意識して読む】( $t(75) = 6.52, p < .001$ )、【手順を踏んで読む】( $t(75) = 3.16, p < .01$ )の順に変化が大きかった(図1参照)。

## 2. 学生の授業后感想の分析

### 1) 「ためになったこと」

リーディング指導において学生が「ためになったこと」として記述した内容から14のカテゴリーを抽出し(表4参照)、そのカテゴリーと5因子との対応を検討した。以下、主な記述を〈〉、カテゴリーを[ ]、因子を【 】で示す。

〈重要な言葉を頭に置いて読むことにより、文章の理解が全然違うことを知った〉、〈言葉を正確に知らないと読んでいても理解しきれていないのだと気付く〉、〈今まではさらっと読み流していた部分も注意して読むようになった〉などの記述を[言葉の意味]とした。〈二度読みや分析読みで理解しやす

くなる〉、〈段階を踏んで読むことで理解しやすくなる〉などの記述は[段落読み]とした。〈文章を読みながら自分なりの考えを持つようになった〉と〈1つの文章からいろいろなことを考察するようになった〉を統合して[自分の考え]とした。[言葉の意味]・[段落読み]・[自分の考え]は、その意味内容から第1因子【深く読む】に対応すると判断した。

〈要点を考えて読むようになった〉、〈要点をつかめるようになった〉などの記述は[要点押さえ]、〈要約することによって文章理解を確実なものにできる〉、〈要約でどのような所を切り捨てていいかがわかるようになった〉などの記述は[要約と理解の連関]とした。〈どういうことを考えながら読めば、その文章をより理解できるか分かった〉、〈内容を理解できているかどうか確かめながら読むことができるようになった〉の2つは[読みの方略]、〈重要なことを考えながら読むやり方〉、〈読みながらどこが大切なのかを探りながら読むとよい〉、〈テーマにあった重要な所の探し方が少し分かったように思う〉などは[主題把握]とした。

〈要点を押さえた読み方をするために筆者が強調している所を探すようにする〉、〈文章に書かれている所だけではなく、それを書いた心理を読み取ることが大切〉などの記述は[筆者の主張理解]とした。以上、[要点押さえ]・[要約と理解の連関]・[読みの方略]・[主題把握]・[筆者の主張理解]の5つは、その意味内容から第2因子【大局に立って読む】に対応すると判断した。

〈一段落にひとつ大切なことが書いてあると思って探すようになってから、要点が見つけやすくなった〉、〈文章のひとつひとつを全体のまとまりとの関係を考えながら読むということをしていなかったの、その大切さに気付いた〉などは、[文のまとまり]とし、〈「しかし」や「また」など、何を意識

表4 リーディング指導で「ためになったこと」

因子	カテゴリー	主な記述
深く読む	言葉の意味	<ul style="list-style-type: none"> <li>重要な言葉を頭において読むことにより、文章の理解が全然違うことを知った</li> <li>言葉の意味を考えながら読むようになった</li> <li>言葉を正確に知らないと読んでいても理解しきれていないんだと気付く</li> <li>言葉を知ることが大事</li> <li>今までは「さら〜」っと読み流していた部分も注意して読むようになった</li> <li>難しい文章でも何回も読めばできるということが分かった</li> </ul>
	段階読み	<ul style="list-style-type: none"> <li>二度読みをしたほうが効率よく理解ができる</li> <li>二度読みや分析読みで理解しやすくなる</li> <li>二度読みすることで理解が深まる</li> <li>段階を踏んで読むことで理解が深まる</li> </ul>
	自分の考え	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章を読みながら自分なりの考えを持つようになった</li> <li>1つの文章からいろいろなことを考察する練習になった</li> </ul>
大局に立って読む	要点押さえ	<ul style="list-style-type: none"> <li>要点がつかみやすくなった</li> <li>どんな長文でも、要点が分かるようになった</li> <li>要点を考えて読むようになった</li> <li>要点をつかめるようになった</li> <li>要約するためには、ちゃんとどこが要点なのかを頭で考えながら文章を読む力が必要</li> </ul>
	要約と理解の連関	<ul style="list-style-type: none"> <li>要約することによって文章理解を確実なものにできる</li> <li>要約でどのようなところを切り捨てていいか分かるようになった</li> </ul>
	読みの方略	<ul style="list-style-type: none"> <li>どういうことを考えながら読めば、その文章をより理解できるか分かった</li> <li>文章を読むときに少し意識するだけで、理解が深まった</li> <li>内容を理解できているかどうか確かめながら読むことができるようになった</li> </ul>
	主題把握	<ul style="list-style-type: none"> <li>重要なことを考えながら読むやり方</li> <li>どこを注目してやればいいのかと分かるようになった</li> <li>重要な部分分かるようになった</li> <li>どこが大切なのか考えながら読むようになった。</li> <li>大切なところはどこなのか見つけることが前よりもできるようになったと思う</li> <li>読みながらどこが大切かを探りながら読むといい</li> <li>文章の大切な所を再度確認できるようになった</li> <li>テーマにあった重要な所の探し方が少し分かったように思う</li> </ul>
	筆者の主張の理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>どういう風に読み進めていけば、作者の意見を読み取りやすくなるのが分かった</li> <li>要点を押さえた読み方をするために筆者が強調している部分を探すようにする</li> <li>要約（整理）しながら読むと筆者の言いたいことが分かって学んだ</li> <li>文章の筆者が何を言いたいのかが前よりも読み取れるようになった</li> <li>要約することによって書き手が最終的に伝えたい事がどういう事なのかを意識しながら読むようになった</li> <li>筆者の主張を見つける方法</li> <li>文章に書かれていることだけではなく、それを書いた心理を読み取ることが大切</li> </ul>
構造を意識して読む	文のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>1段落に1つ大切なことが書いてあると思って探すようになってから、要点が見つけやすくなった</li> <li>段落分けをする</li> <li>文章のひとつひとつを全体のまとめとの関係を考えながら読むということをしていなかったため、その大切さに気付いた。文章のまとめがつかみやすくなった</li> </ul>
	文の関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>何を意識しながら読めば良いのが分かった（例えば、「しかし」や「また」）</li> <li>文のつながりを考えるようになった</li> </ul>
	目次の把握	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章を読み始める時、まず目次や全体に目を通した方が理解の助けになる</li> <li>読む前に目次を読むことが文章全体をつかむのによい</li> </ul>
	文章構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>どういう文章構成なのかといった事を頭で考えながら文章を読む力が必要</li> <li>構成の考え方</li> </ul>
手順を踏んで読む	言葉調べ	<ul style="list-style-type: none"> <li>今まで分からない言葉でもこんな感じかなと思って放っておくことが多くあったけれど、ちゃんと調べるようになった</li> <li>自分の知らない言葉、説明ができない言葉などを多く見つけることができたので、そういった言葉ひとつひとつを意識するようになった</li> <li>分からない言葉をそのままにせず調べることで文章の意味が分かってくる</li> <li>文章中の難しい語句を調べるようになった</li> <li>わからない言葉を無視しないで、調べてから読むとより内容の理解が深まることがわかった</li> <li>わからない言葉はその都度調べる</li> </ul>
	チェック	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分が重要だと思う所だけに線を引くのではなく、わからなかったことにも線を引くというクセが付いた</li> <li>何度も出てくる単語に○をつけるなどのコツが分かった</li> <li>分からないところをチェックし、それをまとめるようになった</li> <li>大事な所に線を引いたりする</li> <li>ペンを持ちながら読めるようになった</li> </ul>

しながら読めば良いのかがわかった」と〈文のつながりを考えるようになった〉は「文の関係」とした。〈文章を読み始める時、まず目次や全体に目を通した方が理解の助けになる〉と〈読む前に目次を読むことが文章の全体をつかむのによい〉を合わせて「目次の把握」とした。また、〈どういう文章構成なのかといった事を頭で考えながら文章を読む力が必要〉と〈構成の考え方〉を「文章構成」とした。「文のまとめり」・「文の関係」・「目次の把握」・「文章構成」の4つは、その意味内容から第3因子【構造を意識して読む】に対応すると判断した。

〈わからない言葉をそのままにせず調べることで文章の意味が分かってくる〉、〈文章中の難しい語句を調べるようになった〉など

は「言葉調べ」、〈自分が重要だと思った所だけに線を引くのではなく、分からなかった所にも線を引くというクセが付いた〉、〈何度も出てくる単語に○をつけるなどのコツが分かった〉などを「チェック」とした。

「言葉調べ」と「チェック」は、その意味内容から第4因子【手順を踏んで読む】に対応すると判断した。

## 2) 「役立ったこと」

入門ゼミナールIにおいて、リーディング指導が役立ったと回答した学生理由から、7つのサブカテゴリー、4つのカテゴリーを抽出した(表5参照)。以下、主な記述を〈 〉、サブカテゴリーを《 》、カテゴリーを〔 〕で示す。

〈文章の良い読み方が分かった〉、〈文章

表5 リーディング指導で「役に立ったこと」

行別	サブカテゴリー	主な記述
スキルアップ	読み方の習慣	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章の良い読み方が分かった</li> <li>文章の読み方のテクニックを学ぶことができた</li> <li>こうやって読めば理解しやすいと分かった</li> <li>効率よく理解する読み方が分かった</li> <li>学んだことを生かしたら理解しやすくなった</li> <li>読むときの方法を知ることができた</li> <li>今までよりも文章を読むときに内容を深く理解できるようになった</li> <li>分かりにくい文章でも読み方に工夫をしてみると理解しやすくなる</li> <li>読むときは色々と工夫することで理解が深まる</li> </ul>
	要約の上達	<ul style="list-style-type: none"> <li>文のまとめ方が分かった</li> <li>短時間で文章の要約ができるようになった</li> <li>要約のポイントを少しつかめた</li> <li>周りの人の要約の仕方を知り自分の中で役立てている</li> <li>4月よりも要約するスピードが速くなったと思う</li> <li>要約のコツをつかめた</li> </ul>
読むことの認識の変化	他者の読み方	<ul style="list-style-type: none"> <li>皆がどんな読み方をしているかわかった</li> <li>他の人が課題文を読む時にどんな事に気を付けているのか聞けたので参考になった</li> <li>他者の読み方も知ることができた</li> <li>人の考えを知ることができた</li> <li>他の人の意見を聞いて様々な着眼点があることに気付けた</li> </ul>
	自己の読み方の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の読みのクセが分かった</li> <li>今まで気を付けていなかった所はやるようになったと思うし、今までやっていたことを更に注意してやるようになった</li> <li>自分が主観的な読み方をしていたことに気付くことができた</li> <li>今までの自分の読み方を振り返る良い機会になった</li> <li>自分が普段注意してなかったことを発見できた</li> <li>文章の読み方が身に付いたと思う</li> <li>読むときのポイントがつかめるようになった</li> </ul>
	読みの再認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>読んで「理解する」ことの難しさを学んだ</li> <li>説明できるようになって、やっと「読んでいる」のだとわかった</li> <li>読むことがいかに大切かが分かり、以前よりも考えながら読むようになった</li> </ul>
実践・活用	授業への応用	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の内容を理解しやすくなった</li> <li>勉強をする上で基本的なことがわかった</li> <li>授業の時に使えた</li> <li>日々の授業での読解力が付いた</li> </ul>
	自己主張	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えたことを主張することができる力が身に付いた</li> <li>それをみんなに伝える練習になった</li> </ul>
楽しさ		<ul style="list-style-type: none"> <li>日頃の本が楽しくなった</li> </ul>



の読み方のテクニックを学ぶことができた〉、〈分かりにくい文章でも読み方を工夫してみると理解しやすくなる〉などの記述を《読み方の習慣》、〈要約のポイントを少しつかめた〉、〈4月よりも要約するスピードが速くなったと思う〉などを《要約の上達》とし、2つのサブカテゴリー《読み方の習慣》と《要約の上達》を〔スキルアップ〕としてカテゴリー化した。

〈他の人が課題文を読む時にどんなことに気を付けているのか聞いたので参考になった〉、〈他者の読み方も知ることができた〉などを《他者の読み方》、〈自分の読みのクセが分かった〉、〈自分が主観的な読み方をしていたことに気付くことができた〉などを《自己の読み方の評価》とした。また、〈説明できるようになってやっと「読めている」のだと分かった〉、〈読むことがいかに大切かが分かり、以前よりも考えながら読むようになった〉などの記述を《読みの再認識》とした。《他者の読み方》・《自己の読み方の評価》・《読みの再認識》は、〔読むことの認識の変化〕としてカテゴリー化した。

〈教科書の内容を理解しやすくなった〉、〈日々の授業での読解力が付いた〉などの記述は《授業への応用》、〈自分の考えたことを主張できる力が身に付いた〉、〈みんなに伝える練習になった〉は《自己主張》とし、2つのサブカテゴリー《授業への応用》と《自己主張》を〔実践・活用〕としてカテゴリー化した。

〈日頃の本が楽しくなった〉との記述は単独で〔楽しさ〕とした。

## IV 考察

### 1. リーディング力の向上

「文章の読み方チェックシート」にあった28項目から因子分析によって導かれた【深く読む】【大局に立って読む】【構造を理解し

て読む】【手順を踏んで読む】【創造的に読む】の5因子はリーディング力の構成要素でもあると考える。それぞれの因子に対応すると判断した「ためになったこと」の記述から、指導の結果どのようなリーディング力を身に付けられたか検討する。

#### 1) 第1因子【深く読む】

〈正確に言葉を知る〉〈読み流さない〉〈何度も読む〉などからなる〔言葉の意味〕からは、言葉という文章の要素にこだわること、そこにその言葉を使っている書き手の思いを汲もうと丁寧に踏みとどまることに関する学びが読み取れる。また、〈二度読み〉〈分析読み〉〈段階を踏んで読む〉などからなる〔段階読み〕は、言葉という要素の理解から視野を広げて文章として言葉がどうつながっているかに気を付けて読み取ろうとする読解方法の学びが含まれている。〈読みながら自分なりの考えを持つようになった〉などからなる〔自分の考え〕は、リーディングとは、書かれていることを理解するにとどまらず自分の思考が刺激されることである気付きが示され、読解力の要素である「批判的読み」の萌芽がみられた。以上のことから、【深く読む】力の上昇が意味するものは、文章の構成要素を丁寧に確認することで書き手が伝えたいことに近づきつつ自分の考えと議論することで知ることを深めるリーディング力の向上であると考えられる。

#### 2) 第2因子【大局に立って読む】

〈どこが要点か頭で考える〉〈要点がわかるようになった〉などからなる〔要点押さえ〕は、分かろうと意識して読む読み方の獲得が読み取れる。〈テーマにあった重要な所の探し方が分かった〉〈大切な所を見つけられるようになった〉などからなる〔主題把握〕は、文章全体の主題を意識して読む読み方の獲得が読み取れる。〈文章に書かれている事だけでなく書いた心理を読み取る〉〈筆者が強調している部分を探す〉などからなる

〔筆者の主張理解〕は、書き手の意図に接近を試みる読み方の獲得が読み取れる。これら〔要点押さえ〕〔主題把握〕と〔筆者の主張理解〕は、読解力の重要要素である「重要な情報の読み取り」に該当している。〈要約することで文章理解が確実に〉〈要約すると筆者の言いたいことが分かる〉などからなる〔要約と理解の連関〕は、要約の意義の再発見が読み取れる。〈理解できているか確かめながら読む〉〈どういうことを考えながら読めば理解できるか分かった〉などからなる〔読み方のメタ認知〕からは、理解するための自己客観視が意識付けられた変化が読み取れ、読解力の要素であるモニタリングができるようになってきている。以上のことから【大局に立って読む】の上昇が意味するものは、接続語や段落や目次が文章を論理的に他者に伝達する重要な仕組みであることへの理解に基づき、書き手の意図を正しく解釈することを追求しながら、それができているかをフィードバックして自分の読み方の工夫をするリーディング力の向上であると考えられる。

### 3) 第3因子【構造を意識して読む】

〈読む前に目次を読むことで文章全体をつかむ〉などからなる〔目次把握〕は、文章理解に目次が活用できる発見が示された。〈一段落に一つの一つの大切なことを探す〉などからなる〔文のまとまり〕は、文章理解に段落を意識することの効果の発見が認められた。〈「しかし」や「また」を意識して読む〉などからなる〔文の関係〕は、文章理解のために接続語に注目する必要の気付きが示された。〈構成を考えながら読む力が必要〉などからなる〔構成〕は、一文一文に注目するだけでは不十分であることへの理解が示された。以上のことから【構造を意識して読む】の上昇は、接続語や段落や目次が文章を論理的に他者に伝える重要な仕組みである理解に基づき、正しく読む方法を再確認できたことを意味すると考える。

### 4) 第4因子【手順をふんで読む】

〈分からない言葉を無視しないで調べる〉などからなる〔言葉調べ〕は、文章の基本要素である言葉の正しい理解が文章理解の基盤となることの再発見が示された。〈分からなかったところにも線を引く〉〈何度も出てくる単語に丸を付ける〉などからなる〔チェック〕は、読解に役立てるために印を付けながら読むテクニックの獲得が示された。以上の学びから【手順を踏んで読む】の上昇は、リーディングを成立させるための条件を整えるコツの習得を意味すると考える。

### 5) 指導前後の「文章の読み方」の変化

「文章の読み方」チェックシートの分析において、リーディング指導の前後で変化が最も大きかったのは第5因子【創造的に読む】で、次いで第2因子【大局に立って読む】だった。この理由を推察すると、まず、指導前のポイントが第5因子【創造的に読む】2.4、第2因子【大局に立って読む】2.6と低かったために変化しやすかったと思われる。書き手の意図を正しく解釈することを追求しながらそれができているかをフィードバックして自分の読み方の工夫をする第2因子が上昇しているのは、単に読みの方略を教え込まれたにとどまらず、読み取るためにどのような努力が必要かを考えるスタンスを身に付けたものと思われる。

また、授業目標としていたリーディング力の変化を「ためになったこと」の分析結果からみると、「重要な情報の読み取り」と「モニタリング」については第2因子【大局に立って読む】のなかで確認でき、「批判的読み」については部分的ながら第1因子【深く読む】のなかで確認できた。しかし、「知識の関連付け」については言葉の意味を正確に知って読もうとする程度にとどまり、既習の知識の想起や関連付けについての気づきは確認されなかった。

### 2. リーディング力向上の要因

学生の授業後の感想から、リーディング指導で「役に立ったこと」として、〔スキルアップ〕〔読むことの認識の変化〕〔実践・活用〕〔楽しさ〕の4つのカテゴリーが抽出された。

リーディング指導の効果として、読み方のスキルが向上しただけでなく、〔読むことの認識の変化〕が生じている。文章の読解において、事前に準備しておいた発問をすることで文章の理解が深まるように工夫したことや、老いに対する視点が異なる文章の教材を使って批判的に読むことを指導したことが、《自己の読み方評価》や《読みの再認識》につながっていると推測する。《自己の読み方評価》や《読みの再認識》は、モニタリング力の向上にもつながるものである。自分の行動や思考を客観的に把握し認識することで、自分自身をモニタリングし、自分自身をコントロールするメタ認知の働きはリーディングにおいても大切である。読み方のスキルや自己評価力の向上の要因の1つとして、「文章の読み方チェックシート」を指導前と指導後に実施したことが考えられる。また、グループワークを多く取り入れて、自分と他者の読み方を比較することができるようにしたこと、他者が自分の発言に対して価値付ける言葉かけをしてくれたり、自分だけでは気付きにくいことにも目を向けたりすることができるようになったと推察する。

今回の研究は、対照群との比較をしていないため、学習効果と教授方法の関連性について言及することには限界があった。しかし、「文章の読み方チェックシート」やリーディングの授業後の感想の分析から、指導による学習効果の内容は明らかになった。

〔実践・活用〕や〔楽しさ〕の記述から、リーディング指導の効果が今後も活用されることが期待できる。看護学生に合わせた教材を用いたことで、実際の看護の授業にも応用しやすくなり、授業理解が深まることを期待できる。

## V おわりに

今回の初年次教育の実施においては、初年次教育の目標、内容・方法について検討する複数の企画担当者を組織的に位置付け、「入門ゼミナールⅠ」の授業を行う全教員とともに授業開始前と中間時に情報共有を行った。それにより、担当教員は教材活用の意図を理解したうえで自分なりの工夫を加えることができ、企画担当者は担当教員からの情報を得ながら授業進行を俯瞰することができた。入学者の特徴は変化しうることから、これからもPDCAサイクルにより、教材や教授方法の改善を図っていくことが大切である。

「看護教育の内容と方法に関する検討会報告書」<sup>4)</sup>では、初年次教育として、読解能力や論理的能力などを高めるための教育内容や、人間のとらえ方やものの見方を涵養するための教養教育の充実を挙げている。今後は、リーディング以外にも教材開発を進め、その学習効果について分析していきたい。

## 引用文献

- 1) 中央教育審議会. 学士課程教育の構築に向けて(答申). 2008. 〈[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1217067.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1217067.htm)〉. 2013年3月29日.
- 2) 濱名篤. 日本における初年次教育の位置づけと効果. 2007. 〈[http://souken.shingakunet.com/college\\_m/2007\\_RCM145\\_04.pdf](http://souken.shingakunet.com/college_m/2007_RCM145_04.pdf)〉. 2013年3月29日.
- 3) 杉山恵子. 看護を目指す“若者”への効果的介入 今こそ必要な支援. 看護教育. 2009;50(5):408-412.
- 4) 厚生労働省. 看護教育の内容と方法に関する検討会報告書. 2011. 〈<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r9852000001310q-att/2r9852000001314m.pdf>〉. 2013年3月29日.
- 5) 前田由紀子・唐崎愛子・石田佳奈子ほか. 看

護学科における初年次教育・二年次教育の成果  
と課題. 西南女学院大学紀要. 2012;16:15-23.

6) 秋田喜代美. 読む心・書く心 文章の心理学  
入門. 京都:北大路書房;2002.

7) 学習技術研究会. 知へのステップ (第3  
版). 東京:くろしお出版;2011.